

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校
荒井翔子 北坂茂樹

教科名(英語科) 指導者名 (友利サイナ)

生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <p>4技能に偏りがある。リスニングを得意とする一方、英単語を書くことやスピーキングが苦手である。英語で聞いたことに英語で返事をする力を養いながら、正しい英語の基礎学力を身につけさせたい。動画教材を使って返答の仕方を覚えさせ、覚えた単語を使わせる。活動を授業の中で取り入れていく。またこうしたアウトプット活動に必要な語彙も書かせ、定着を図る。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>学習に前向きに取り組む生徒が多く、課題の提出率もほぼ100%である。語彙の知識や文法に関する発問をすると、答えを出すことができる。しかし、1学期末に生徒から授業や1学期について意見を受け付けたところ、文法事項の学習に不安感を覚えている生徒が多かった。文法を使用する場面設定や、練習の機会をもっと多く取り入れる必要がある。また、定期考査で英作文の得点率があまり良くなかった。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>特にWritingを苦手としている生徒が比較的多い。日常生活や思ったこと感じたことなどを英語で表現する機会を多く作りたい。また、学力の差も多く見られることから、基本的な学習事項の定着を図っていきたい。</p>

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> ・英語を積極的に使い、コミュニケーションを取ろうとする態度。 ・初歩的な英語を使って伝えたいことを表現する力。 ・英語を聞いたり、読んだりして概要を理解する力。 ・英語や外国文化に対しての知識をもち、それを理解する力。
--

授業改善推進プラン(課題解決のための具体策)

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を英語能に切り替えさせるために、授業冒頭で生徒と簡単な英会話をし、習った基礎的な英語表現を使わせ定着させる。 ・教科書で使われている表現を用いて英会話の練習をさせた後、教科書を見ずに会話をさせる。 ・教科書を用いた速読をし、ゲーム性を持たせた活動を通して、生徒同士の教え合いを促す。生徒同士で、お互いが間違いやすい表現やつまづきやすいポイントを見つけさせることで自発的な学習や、効果的な指導につなげていく。 ・東京都が推奨している動画教材を用いて、長文を読む練習と、状況に応じた返事をする練習をさせる。 ・英語を書くことへの抵抗感を軽減するために書くことを習慣化させる。 <p>毎授業で行っているBingoで単語を書かせ覚えさせる。終わりには英単語の綴りを見ずに、単語を聞きとって書く練習もさせ、確認をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業でテーマを作り、それに沿って習った表現や英単語を使って英作文をさせる。
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動でBingo、多読、コミュニケーション活動などを取り入れ、特に語彙、会話表現の習得を図る。 ・リスニング、スピーキング、リーディングなど、技能ごとに文法を使用した場面設定を活用し、生徒がターゲットの文法に繰り返し触れることができる機会を作る。 ・単元ごとに、ある程度まとまった文を書く課題を設け、ALTに協力してもらい、指導する。

(第3学年)

- ・ 帯活動などで、会話を継続させたり膨らませたりするために必要な表現を繰り返し使わせる。
- ・ **Writing**の機会を増やし、ALTにチェックしてもらうなど**Writing**の力を身につけさせていきたい。
- ・ パフォーマンステスト等を実施することにより、既習言語材料の定着が図られているかを自覚できるようにする。
- ・ ペアワークをなるべく多く取り入れ、学び合いができるようにする。